

件 名：平成29年度第1回道の駅「北条公園」運営連絡協議会
について

日 時：平成29年12月19日（火） 午後7時～午後8時30分

場 所：北栄町中央公民館 2階 大研修室

標記の件について、下記のとおり。

1-1. あいさつ（副町長）

昨年度は、道の駅の中に●（商業施設）を予定した構想で進めていた。しかし、●については、別の用地で出店される計画となった。

上記を受け、新たな構想（案）をお示しできることとなったことから、ご説明させていただきたい。

1-2. 自己紹介

2-1. 役員選出

事務局案として、地域、事業者双方の視点から1名ずつ提案し了解された。

会 長 柿本 一夫 様

副会長 山崎 稔 様

2-2. 会長あいさつ

・皆さまのご協力をいただきながら、進行させていただきたい。

3. 経過報告

・平成28年3月、山陰道の整備に合わせ、道の駅北条公園が通過点とならないよう、大型商業施設の集客を魅力の一つと捉え、再整備を検討する協議会設立

準備会の開催を行った。

・2回にわたる協議会を開催し、●が含まれた形でご協議いただいた。

・これまでの協議会を踏まえ、4月に基本構想策定業務を業者委託し、業務にあたっていただいている。

・8月に再整備のスケジュール間と出店スケジュールが合わないことから、●が、道の駅での出店を断念され、町で改めて、再検討を行ってきた。

4. 基本構想（案）説明（目的・コンセプトの提案、共有）

・町の取組みの柱となる「まちづくりビジョン」の中に掲げられている「げんきなまちづくり、農業の振興」を捉え、「農業から北栄町を元気にすること

」を目的として、提案させていただきたい。

・上記目的を達成するために、施設が担う役割として「地域に

愛され、農業の「魅力に満ちた交流拠点」をコンセプトとして向かわせていただきたい。

・テーマについては、北条砂丘の中心に位置するため「北条砂丘のめぐみ」をテーマとし、再整備に向かわせていただきたい。その他、別紙のとおり

【質疑応答】

委員1

・基本構想再検討は、業者が単独で行ったものか。

町→●が単独で出店を目指すこととなったことから、基本構想の見直しが必要となった。町では、協議会にお諮りする前段として、ある程度の案を固めることとし、道の駅の視察を行いながら、運営方法から見直すことを町主導で行わせていただいたところである。

業者については、町が案にしたものを形にさせていただいてるところであり、案についても、確定ではなく、協議会を経て、皆さんのご意見を反映させていただきたいと考えている。

・運営協議会の役割とはいかかなものか。

町→協議会設置要綱に規定してあるとおり、道の駅「北条公園」の運営方針、管理体制、一体型登録に必要な事項に関する協議をいただき、方向性を示していただくことが会の役割となっている。ただ、何のたたき台もなく、白紙の状態から委員の皆さまにご意見をお聞かせいただくのは、失礼にあたるのではないかと、事務局である程度整理したものをお示し、その中で善し悪しを含めご協議いただくと、時間の短縮も図れるのではないかと考えたもの。

・たたき台は分かるが、委員を無視しているのではないか。

町→あくまでもたたき台であり、今後の協議会、所有者説明会で協議したものを反映させていただきたいと考えている。

委員2

・再整備に係る面積、範囲に関する縛りはあるか。

町→エリアに縛られることなく、ご協議いただきたい。ただ、無尽蔵にお金があるわけではないことから、ある程度絞らせていただき、事業費を見積らせていただくことをご理解いただきたい。北エリアについては、約7.7ha、南エリアについては、約4.6haとなるが、地域振興部分については、事業の目的等も勘案しながら検討していきたい。

委員1

・農業一本で賑わいが創れるか心配である。白砂青松を活かし、海岸を活用したことを考えていただきたい。このコンセプトでは、オートキャンプ場を整備する意味を見出せな

い。魚釣りやマリンレジャーを考えていただきたい

町→海岸を活用した案についても、資料3の中に盛り込ませていただいている。

農業をテーマとしている理由としては、砂丘地振興基本構想を合併時に作成していることが挙げられる。上記構想の中で、農業を魅力として進めていくことが挙げられていることから、踏襲させていただいている。決して、農業一本だけで何かしようとは考えていない。最近では、キャンプも人気が高くなっている。もっとゴージャスなグランピング等、手ぶらでキャンプを楽しむものからグランピングカーで楽しむものまで幅広く構想に盛り込みたいと考えている。

- ・ キャンプファイアは、できるのか。
- ・ 鳥根県多古鼻のログハウスは、とても人気がある。宿泊施設を建設していただきたい。また、子ども連れで遊ぶ場所がない。お金を落とす場所が必要である。

委員3

・ 道の駅の位置付けが、以前は、休憩所であったものが、現在では、地域活性化の拠点となって賑わっている。今賑わっている道の駅は、道の駅が目的化している。大栄の道の駅が隣接していることから、同じような物が二つあると大栄のコナンに引っ張られることが予想されるため、違いをはっきりと出し、両方に行きたくなるような魅力作りをしていただきたい。

・ 今日示してある範囲で用地買収を行うか。

町→●が来られる予定で範囲を確定したため、一先ず、この範囲で所有者に説明をしたいと考えているが、提案する施設を入込もうとする場合、不足する部分も出てくると考えている。しかし、広いで範囲で向かうと狭くすることは難しいことから、確実なところから抑えていきたいと考えている。

委員3

・ 一体型登録の認定にあたっては、施設の効率的なレイアウトを厳しく見ている部分がある。この形は、歪であり、導線の利便性が悪いと通らないことから、効率的な配置に注意していただきたい。情報コーナー、物販等離れていないように考えていただきたい。

・ 道の駅のみで完結し、この施設の魅力を高めるというコンセプトとなっている。道の駅は、小さな拠点であり、そこを起点として、町内ほかの魅力に誘導するといった役割も必要なことから、そのような視点で考えていただきたい。白砂青松の場所に立寄るなど、情報の発信をする施設を考えていただきたい。

町→欠けていた部分について、再度検討させていただきたい。

星取県ではないが、蜘蛛ヶ家山山菜の里を整備したいと考えている。眺望が良いことから、磨き上げし、連携していきたいと考えている。道の駅大栄についても、隣接していることから、双方が互いに高め合い、魅力を付加していかなければならないと考えている。
差別化は図るが、互いに研鑽をし合う機能を構築できればと考えている。

・いかに町内の方に来ていただけるかが鍵と書いてあるが、町内の方には限りがある。鳥取西道路ができ、山陰道の整備が進むと関西から九州方面は、縦貫道が通っているが、有料であり、鳥取西道路ができることで、山陰道に来る確立が高くなり、通過交通が増えることが予想される。その方を引込むこと、近畿からの観光バスが鳥取砂丘で止まりであるものを、中部まで足を伸ばせる仕組みにもっていくことが必要である。

委員 1

・道の駅を再整備した場合の金額は、いくらとなるか。
委員3→一体型になれば、駐車場、トイレ、情報コーナーについては、国で整備する。現在、トイレが重要な鍵となっている。賑わっているところは、トイレが綺麗。大栄は1号であり、トイレも老朽化しているので、綺麗にしていきたいと考えている。

委員 1

・道の駅大栄の駐車場は草が生茂っているので、綺麗にしたい。

委員 4

・ワイナリーができた場合、車で南北を横断しないといけないか。歩道ができるのか。飲んで、キャンプができるよう歩ける方法を考えていただきたい。
町→今のところ、車で横断していただくことになろうかと思っているが、まだ決定していない状況である。

委員 5

・キャンプに来た人を当てにして、お肉等を販売したが、実際は、忘れてきた方だけが商品を購入するということで、従業員の日当も出ないのが現状であった。そのため、業態変更を余儀なくされ、今日に至っている。

委員 2

・花火は、継続可能か。そのための駐車スペースは、確保されているのか。

委員 2

・規模について、教えていただきたい。
町→規模については、度外視して考えていただき

たい。本日の段階では、どういう風に賑わせていきたいかを考えていただきたい。その上で、予算に応じて範囲を確定していきたい。自由に議論いただきたい。

委員 5

- ・整備後の入込客数はどれくらいを想定しているか。
- ・トイレも平成2年に建設以来、かなり老朽化している。
町→現段階で、入込客数は、試算していない。
南トイレについては、老朽化し奥に位置していることから、利用が減っているのが現状であり、考えていきたい。
平成17年南エリアの入込客数が、79,032人、北エリアについては、7,302人の入込客数となっている。平成26年には、南エリアの入込客数が、30,982人で、北エリアについては、あまり変わりなく7,927人に推移している。
そういう意味でいくと、トイレ等綺麗に整備をし、多くの立寄りを目指すべきだと考えている。
また、今までの入込客に甘んじることなく、10万人等を目指して、整備することが必要だと考えている。

委員 1

- ・自動車道になった場合、花火の時間帯は、通行止めにするか。
委員 3 →安全な通行に支障がなければ、通行止めとしない。

委員 6

- ・スケートが流行っており、期間限定でスケートが実現できないか。
町→仮に、道の駅で実現できなかった場合でも、B&Gと連携するなど、検討してみたい。

委員 5

- ・南エリアの東西が道路で分断されているが、いかがなものか。
町→当初は、道の駅と商業施設を分けるために通した道であったが、利便性を向上させるために必要不可欠だと考えている。南北を繋ぐ上でも、必要不可欠と考える。

委員 1

- ・農業以外に幅広くコンセプトを設定できないか。
町→農業だけではなく、付加をして幅広く考えていきたい。

委員 2

- ・賑わいについては、町外65%を目指した方が良いのではない

か。町内の人口は減っている。

- ・ 砂丘で遊ばせられる仕組みが必要ではないか。
 - ・ 住みたいと思わせる仕組みが必要である。
- 町→役場の中でもう一度整理してお示しさせていただきたい。

以上

平成 29 年度

第 1 回道の駅「北条公園」運営連絡協議会

日 時 平成 29 年 12 月 19 日 (火)
午後 7 時～
会 場 北栄町中央公民館
2 階 大研修室
(北栄町土下 112 番地)

- 1 あいさつ
- 2 役員選出
- 3 経過報告
- 4 基本構想(案)説明
- 5 その他

【担当】

北栄町産業振興課 農商工推進室

担当：阪本

〒689-2292

住所：北栄町由良宿 423 番地 1

TEL：0858-37-3153 FAX：0858-37-5339

E-mail：(一 般)c-sakamoto@e-hokuei.net

(官公庁)c-sakamoto@town.hokuei.lg.jp

2 役員選出

(1) 役員の内選

道の駅「北条公園」運営連絡協議会設置要綱（以下、「要綱」という。）第3条及び第4条の規定により、会長及び副会長は、委員の内選により定める。

- ・ 会長 1名
- ・ 副会長 1名

(2) 役員の内務

要綱第4条の規定により、

- ・ 会長は、協議会を代表し、会務を総括する。
- ・ 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

会長 柿本 一夫

副会長 山崎 稔

3 経過報告

(1) 経過

平成27年度

- ・ 3月 道の駅「北条公園」運営連絡協議会設立準備会開催

平成28年度

- ・ 8月 第1回道の駅「北条公園」運営連絡協議会開催
- ・ 1月 第2回道の駅「北条公園」運営連絡協議会開催
- ・ 2月 山陰道「北条道路」（はわいIC～大栄東伯IC間）都市計画決定

平成29年度

- ・ 4月 基本構想策定業務委託契約締結
- ・ 8月 (株)PLANT 出店断念意向表明
基本構想再検討

道の駅「北条公園」再整備について

資料①

道の駅「北条公園」の現状

【概要】

名称：道の駅 北条公園
 登録日：平成5年11月24日
 所在地：北条町国坂1525番地92
 立地：国道9号及び国道313号の結節点に位置し、
 国道を隔てて南北に施設が配置されている。

【構成施設の現状】
 構成施設：（北部）飲食店（うどん屋、焼肉屋、ジェ
 ラート店）、直売所、オートキヤ
 ンプ場、トイレ
 （南部）飲食店（定食屋）、直売所、コ
 ミュニティ施設、大規模駐車場、
 トイレ

入込客数：（平成17年） 86,334 人
 （平成27年） 44,719 人
 （平成28年） 40,255 人

施設の老朽化が進み、入込客数は減少。砂丘地の活性化
 に繋がる交流の拠点となっていない。



（特産物販売店）



（屋内体育福祉施設「希望の館」）

賑わっている道の駅の目安

町外のお客さま35%、町内のお客さま65% ⇒ いかに町内の方々に来ていただけるかが鍵

道の駅と周辺地域の課題

- 【道の駅】
- ・山陰道整備（高架化）に伴う立寄率の減少
 - ・道の駅の施設老朽化等による入込客数の減少
 - ・道の駅施設が国道9号により南北に分断され点在しているため、長時間の滞在が困難

【周辺地域】

- ・砂丘地の基幹産業である農業の衰退
 農家数：1,160 → 882（△24%）
 就農人口：2,559 → 1,688（△34%）
 就農者60歳以上構成比率
- ・北条地域71.9% → 82% 大栄地域60.6% → 69.1%
 ※ 平成17年 → 平成27年の数値
- ・悪天候時に子どもの遊び場がない。

- ・高齢者の買物が困難

再整備に期待する効果

- ① 農家の方々がより意欲的に農業に取り組むことができる仕組み作りの実現
- ② 女性と子どもが楽しめる仕組みを取入れることによる女性と子どもの来場者数増加
- ③ 構成施設の整備等による入込客数、宿泊者数の増加

目的・コンセプト・テーマ

- 【目的（まちづくりビジョン（げんきなまちづくり）を実現すること）】 農業から北条町を『元気』にすること
- 【コンセプト（目的を達成するために施設が担う役割）】 北条町の農業を元気にする 地域に愛され農業の魅力に満ちた交流拠点
- 【テーマ】 マ（再整備全体で一貫して表現すること） 北条砂丘のめぐみ

農業の『元気』とは

生産者の生産・販売に対する意欲が高く、
 消費者が積極的に購入する状態

『北条砂丘のめぐみ』とは

現在の北条砂丘地農業を支える全てのもの
 農産物、自然、歴史、景観、人など

農業の魅力に満ちた交流拠点とは

- 農業をしている方もこれからは「農業をしたくなる」 -
- 【要素】
- ・生産物売ることが可能となる。（販売しやすい環境がある。）
 - ・生産者と消費者が繋がる場が広がる。（顔が見える、評価を聞く仕組みがある。）
 - ・生産者各々のライフスタイルに合わせた農業が可能となる。
 - ・積極的に新しいことに挑戦できる。
 - ・儲かる。
 - ・耕作放棄地が減少する。（新規就農者や耕作面積の維持・増など

スケジュール（案）

| 時期 | 内容 | 備考 |
|---------|-------------------------|-------------|
| 29.12中旬 | 第1回 運営連絡協議会 土地所有者説明会 | 目的・コンセプトの共有 |
| 30.2中旬 | 第2回 運営連絡協議会 | 基本構想(案)の確認 |
| 30.3下旬 | 基本構想完成 | |
| 平成33年度 | 着工 | |

平成35年度 オープン予定

■道の駅の機能と導入施設 (案)

1. 休憩機能

●24 時間利用可能な清潔で明るい雰囲気の「トイレ」



●誰もが安心して快適に利用できる「多機能トイレ」



●安全で分かりやすい広々とした「駐車場」



●雨天時や積雪時にも快適に利用可能な「身障者用駐車スペース」



●環境に優しい「EV用急速充電設備」



●ドライバー等がゆったりくつろげる「屋内休憩施設」



●来訪者がリラックスして過ごせる「屋外休憩施設」



●乳幼児連れのお母さんを優しくサポートする「授乳室」



●子ども達が自由気ままに遊べる「キッズスペース」



2. 情報発信機能

●大型モニターやパネルで多様な情報を発信する「情報コーナー」



●観光案内の「SERA」を配置した道の駅の「総合窓口」



●無料 Wi-Fi 環境を整備した「道の駅 SPOT」



3. 地域連携機能

● 地元の新鮮野菜や果物が並ぶ
「農産物直売所」



● 地元特産品や加工商品を販売する「特産品売り場」



● 気軽に食事ができる「ファーストフードコーナー」

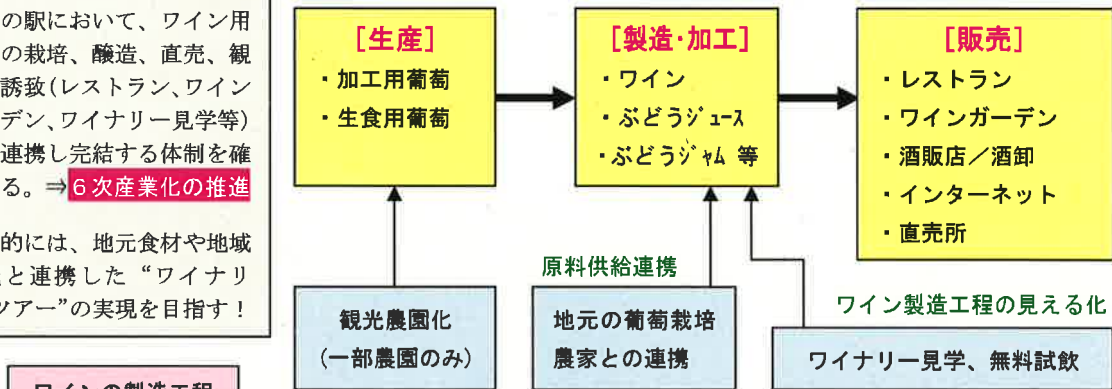


● 「ワイナリー」の整備による6次産業化の推進

道の駅において、ワイン用葡萄の栽培、醸造、直売、観光客誘致(レストラン、ワインガーデン、ワイナリー見学等)まで連携し完結する体制を確立する。⇒6次産業化の推進

将来的には、地元食材や地域観光と連携した“ワイナリー・ツアー”の実現を目指す!

ワイナリーに直売所、レストラン、ワインガーデンを併設し、観光客を誘致!



ワインの製造工程



● レストラン (食との連携)



● ワインガーデン (野外コンサート等のイベントを定期的開催)



● 物販店 (ワインや雑貨類を販売)



※ワイン等の製造・加工施設(ブドウ破碎機、醸成・貯蔵タンクなど)は、道の駅供用開始後の状況を踏まえた上で建設の是非について検討する。

4. 観光、レジャー、交流・連携機能

●収穫体験ができる「観光ぶどう園」(ワイナリーとの連携)



●人工温泉を活用した癒しの休憩スポット「足湯」



●町内周遊観光の拠点となる「レンタルサイクルステーション」



5. 遊び機能

●子ども達が終日楽しめる「屋外遊具広場」



●雨天時でも安心して遊べる「屋内遊具コーナー」



6. 防災機能

●災害用トイレ



●備蓄倉庫



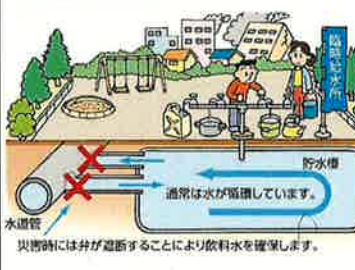
●非常用電源設備



●防災井戸



●給水タンク



●かまどベンチ・かまどツール



●防災パーゴラ



7. その他の集客機能

●給油スポットとして重要な役割を果たす「ガソリンスタンド」



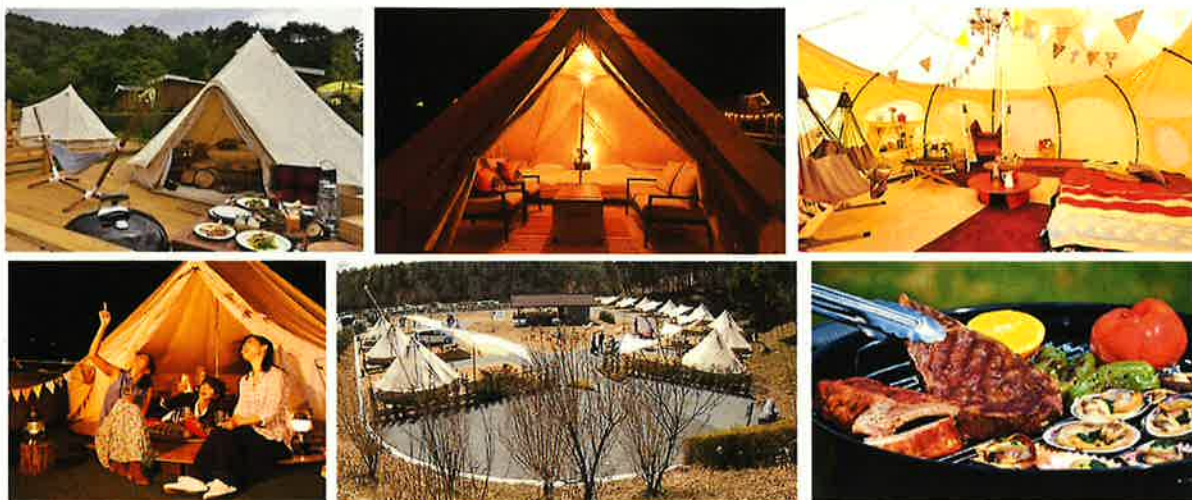
●運転時の立ち寄り拠点となる「コンビニエンスストア」



※左記施設は、いずれも“山陰道を降りるきっかけとなり得る施設”である

8. オートキャンプ場の再整備

●リゾート感覚で贅沢キャンプを楽しめる「グランピング形式のオートキャンプサイト」



●既設バンガローのリノベーション（女性同士でも安心して楽しめる宿泊施設への転換）



●キャブ・ツーカーやカーカーや車中泊者のための「RVパーク」



●「レストハウス」の建替え



●愛犬と一緒にアウトドアを満喫できる「ドッグラン」



●古き良きアメリカンな満喫できる「トラベルトレーラー体験」



●期間限定でビーチエリアに「海辺のワインバー」を設置



●火を囲み、仲間や家族との集いの場となる「キャンプファイヤーサークル」

